

《別紙》

1. 開催年月日 令和2年12月14日(月)

2. 開催場所 西東京市芝久保町5-8-2

エフエム西東京 1階 会議室

3. 委員出席

委員総数 6名

出席委員数 4名

出席委員名

下川 隆 委員長

山本恒安 委員

小松真弓 委員

賀陽智之 委員

欠席委員名

伊藤理香 委員

鈴木 悟 委員

放送事業者側出席者

鈴木信克(代表取締役)

飯島千ひろ(制作室室長・ディレクター)

青木崇(番組ディレクター)

4. 議 題

「絆～KIZUNA～」毎週金曜日 20時15分～21時生放送

5. 議事の概要

あらかじめ送付した番組を録音したCDを聴いていただき審議。

## 6. 審議内容

(下川) 商工会のメンバーが出演しているが、身内同士で敬称を付けることに違和感がある。

抽選会などの説明が長く、全体として45分という尺が必要か疑問。

(賀陽) 司会進行の声が高く、聞きやすかった。BGMは必要ないように感じた。話の内容としては、キャンペーンの説明が長く感じた。楽曲のボリュームが他に比べて小さかった。

(小松) 音の大小は気にならなかった。コミュニティ放送局でこそ取り扱う番組。地域性が高く自分の知らない話も出てきたが、その地域にいる方にとっては、知り合いが出ているだけ面白い部分はある。番組尺は長いように思うが、途中で曲を2曲挟む構成はよかった。

(山本) OPの楽曲が放送する時間帯に合っていないように感じる。変更した方がいいのではないか。全体的にはよい企画だと思う。これから先の地域活性化というところを考えると、継続して欲しい。個人事業主の方が出演されていたので、もっと個人の宣伝をしてもよかったのではないかな。

(伊藤) レポートより

コロナ禍での小平商工会青年部の取り組みの内容が良く理解出来た。話し方も活舌よく話されていて聴きやすく、気になる言葉遣いなどもなかった。OPの音が大きすぎるので驚いた。

『つながる小平』の取り組みは今の時代にとっても大切なことだと思う。また『コロナに負けない消費応援キャンペーン』の取り組みは、飲食店だけでなく全業種の地域の店舗を応援する取り組みであり、素晴らしいと思った。ただ、『もりもりキャンペーン』がどのようなものなのかが最後までよくわからなく最後に説明が入り納得したが、もっと早く説明があればモヤモヤせずに聴けたと思う。

(青木ディレクター) ボリュームや機械の操作、マイクのオン・オフなど、出演者も説明が必要

であると感じましたので、今後対応していく。番組スタートのきっかけが、外部に向けた話の仕方についての練習という側面もあったが、公共の電波に乗っている以上、これが本番なのだという意識で放送していきたい。

(鈴木取締役) 番組内容や BGM については、商工会の皆様で決めて頂いてると承知している。

長年使用しているという点なども考慮し、検討していければと思う。ご評価いただいたように、コミュニティ放送としてふさわしい内容になったかと思う。番組の主体は、「商工会青年部」だが、ディレクターからもより良い番組作りについて引き続き、提案させていただければと考えている。

7. 審議機関の答申又は意見に対してとった措置の内容及び年月日

なし

8. 審議機関の答申または意見の概要の公表

自社放送 事務所への備え置き 自社 HP への掲載

9. その他の参考事項

なし